

【授業実践の振り返り】 国語（光村）中 2 年 「根拠を明確にして意見文を書こう」

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
0	家庭学習課題	「より良い地球の未来」特に環境問題等に関する課題を決めて情報を集める。	・教科書の論説文「モアイは語る」を学習した際に、「地球の未来」について考えていたので、今回の意見文の単元では、それに関連付けて自分なりのテーマを選ぶことができた。	・調べ学習の内容は各自ノートに記載させたので、調べてきた量に差があった。調べ学習用のワークシートを用意し、「調べる時の観点」をある程度指定した方が、量的にも質的にも生徒たちにとって調べやすかったと思う。	・論説文「モアイは語る」の授業から、今回の「よりよい地球の未来」に関する意見文を書く単元に、自然に発展させることができていた。
1	課題を決め立場を明確にする。	＜めあて＞ 社会生活の中から「地球の未来」に関する課題を見つけ、自分の立場を明確にする。 各自が持ち寄った記事や情報をクラスで紹介する。 ↓ カテゴリーごとにグループに分かれて意見を交換する。 ↓ グループで話し合うことにより、自分の意見の元となる根拠を明確にする。	・1 時間の予定で実施したが、予想した以上に生徒たちの意見交流（同じような意見を持っている生徒たちの集まりによるグルーptーク）が活発に行われ、時間が足りないくらいだった。 ・日本語力に関係なく、どの生徒も自分の意見を積極的に発言していた。またクラスメイトの意見を聞いた後に、様々な質問もしていた。 ・生徒たちが「言いたいこと、伝えたいことがある」という状況設定することが、活発なグルーptークへ繋がると実感した。	・もし時間的に余裕があれば、1 時間以上の授業で実施できると良かった。（丸 2 時間は必要ない）	・日本語力に自信がない生徒たちほど、他の生徒たちの意見の表現の仕方を熱心に聞いていた。そして、それを自分の発言の時に必要な語彙として使用できるよう、一生懸命に集中してグルーptークに参加していた。 ・日本語力が高い生徒たちは、自分の意見を熱心に聞いて貰えることで発言のモチベーションが上がり、より内容の濃いグルーptークへと発展させることができた。
	家庭学習課題	パネルディスカッションの準備 - 根拠（取り出した情報）の解釈や反論の想定			

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
2	根拠を明らかにし、より説得力のある意見を確認する。	＜めあて＞ 意見を支える根拠を考え、反論を想定して自分の意見をより明確にする。 パネルディスカッションの準備 - 自分の意見を支える説得力のある根拠を考える。(理由) - 自分の意見や根拠に問題点がないか考える。(反論) パネルディスカッション	・パネルディスカッションやディベートは、現地校で既に何回も経験しているため、現地校通学歴が長い生徒たちにとっては、手順がすぐに理解できていた。 ・パネルディスカッションをし、様々な意見を聞くことで自分の意見がより深まっていた。また「自分の意見に対する想定される反論とそれに対する考え」を持つことが、より簡単にできていた。 ※今回、意見文に「想定される反論に対とそ	・日本から来て日の浅い生徒たちは、パネルディスカッションの概念が薄かったため、初めはどんな活動をするのが分かりにくいようだった。このような生徒たちへの手立てとして、パネルディスカッションについて、もう少し詳しく説明すれば良かった。 ・パネルディスカッションとディベートの違いをもっとはっきりと理解させることができれば良かった。現地校ではディベート	・本当に楽しく生き生きと授業に取り組んでいた。 ・グループ内のチームワークが非常に高まり、同じグループメンバーの意見をサポートするような発言が、活発になされていた。 ・欠席した生徒が、非常に盛り上がった授業の話を後で聞き、授業に参加できなかったことを残念がっていた。 ・出席者からは、「もう一度やりた

		- 役割に応じて討論を進める。パネルディスカッションを振り返る - 内容を振り返り、考えの広がりや深まりを確認する。	れに対する考え」を入れることを目標とした。	が多いので、つい論破をしようと熱くなる生徒たちがいた。	い！」という声が多く 上がっていた。
	家庭学習課題	構成メモの下書き			・どのように構成メモの下書きを書いたら良いかが分からず、困っていた生徒たちが多くいた。しかし、その「困り感」が次時（3 時限）の学習のモチベーションとなっていた。

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
3	構成を考え意見文にまとめる。	<めあて> 構成メモを作り文章の構成を考え意見文の下書きの準備をする。 ①意見文の「構成の型」の例を確認する。 ②反論の想定の方をを考える。 ③双括型の構成メモを作成する。 ④明確な意見文を書く留意点の確認	・構成メモのワークシートに「文章表現の例」が入っていることで、日本語力の差異に関係なく、どの生徒たちにとっても書きやすい手立てとなっていた。 ・宿題で作成してきていた「構成メモの下書き」があったことで、授業中に取り組んだ正式な「構成メモ」がスラスラと書いている生徒たちが多かった。 ・意見文の「構成の型」が視覚的にも分かりやすいように、プロジェクター資料を用意したことが効果的であった。教科書の本文よりも、生徒たちには分かりやすかった。	・生徒たちが、意見文の「構成の型」を理解した後に、もっと時間をかけて例文を読み、「構成の型」と内容を照らし合わせれば良かった。	・教師が意見文の「構成の型」を教え込むのではなく、生徒たちがグループごとに、例文について構成を考える活動をとっても熱心に行っていた。話し合いの後に、グループの考え（自分たちが予想した意見文の構成）を紙に書いて発表するところ、お互いの意見を興味深そうに聞いていた。
	家庭学習課題	下書きの完成 *清書は教師が下書きを添削後、宿題とする。			

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
4	意見文を発表する。	<めあて> 意見文を読みあって助言し合う クラスを半分に分け、前半グループと後半グループに分けて、ペアになり意見文を発表し、良い点や改善点を話し合う。これを時間いっぱい順次ペアを変えていき、発表していく。	・前に出て、一人ずつ発表する形式ではなく、一対一で発表し合う形式で行った。相手の意見を聞いた後には、質問や感想を述べることができる時間も設け、その場で良かった点や改善点の意見交換ができた。発表する側も聴く側も、大変真剣に発表会に取り組めた。	・1 時間ではクラスの半分の発表を聞くことが精一杯だったので、できればもう少し長く時間が取れると良かった。聞きたい人の発表が聞けなくて残念だった生徒もいた。	・一人か二人という、少人数の前で 5 回も 6 回も発表をしたので、緊張せずに、しかも自然に発表に慣れてきていた。そして、最終的にはスラスラと自分の意見が述べられるようになっていた。生徒たちには、負担なく発表ができて好評だった。聴く側も意見を出しやすいかった。